

今日はこの場を借りてある事件を紹介します。そして私がおつちよこちよいで、未熟だと気づかせてくれた人へ謝罪させていただきます。この話があなたの役に立つか分からないけど、とにかく謝らせてください。

それは駆け出しカウンセラーだった10年ほど前。

ナビゲーター

バツイチ男の夕食と言えば、割引シールが貼られたスーパーの惣菜か牛丼でした。中でも会社の帰宅途中にある吉野家は、質・量・味・値段・スピード…おまけにゴミの分別不要。どれをとっても最強の選択肢でした。

その日も吉野家に立ち寄り、カウンターの

回

39

産業カウンセラーの現場から

相談者の思いに共感して伴走する

思い込みで判断した未熟者の回顧

左端に座りました。先輩から「カウンセラーは心の声を聴く。心は英語でハート。ハートは心臓。だから左側に座れ」と教えられた私の指定席でした。そこでもいつも通り、並盛に生卵と紅シヨウガをのせ、七味と醬(しょう)油をかけて食べていると、右側、三つ隣の席の男性が視界に入りました。ここまではありふれた光景です。

しかし次の瞬間、私は目が点になりました。なんと彼は左手ではしを握り、丼はカウンターに置いたまま犬食い。今どき「はしは右」なんて矯正しないし、持ち方だって「そうい

牛丼店で見た左利きの人

「右腕のない男が左手ではしを握りしめ、丼をカウンターに置き、犬食い」…これが事実。それまで私は障害者や弱者を蔑視したことはなかったし、そんなことは絶対しない人間だと思っていました。だから彼を蔑視した自分がシヨックでした。そして、心の中で手を合わせました。それからは、自分に見える世界だけで判断しないよう気を付けています。

ところが、私の目に映ったのは所在なく垂れ下がった右袖。そう！彼は右腕がない。先天的か？ 病気が？ 事故か？…そんなことはどうでもいい。問題は今、目の前の事実。

「右腕のない男が左手ではしを握りしめ、丼をカウンターに置き、犬食い」…これが事実。

それまで私は障害者や弱者を蔑視したことはなかったし、そんなことは絶対しない人間だと思っていました。だから彼を蔑視した自分がシヨックでした。そして、心の中で手を合わせました。それからは、自分に見える世界だけで判断しないよう気を付けています。

あの時の若者よ…ごめんなさい。私の謝罪は以上です。こんな話を最後まで読んでいただいてありがとうございます。

【日本産業カウンセラー協会中部支部広報部員 産業カウンセラー 三浦房市】

(火曜日に掲載)

